キリスト教学研究室紀要

第 10 号

―論文―

テルトゥリアヌスにおける夢概念の分析　――『魂』の議論を中心として――
津田　謙治（1）

固有名詞（שם העצם）を取り巻くヘブライ語文法の断層
――17世紀アムステルダムのユダヤ社会における三つの文法教科書――
手島　勲矢（19）

―研究ノート―

アウグスティヌス『創世記逐語注解』12巻における霊的視像としての夢
渡邉　蘭子（45）

矢内原忠雄の戦時・敗戦直後の「愛国心」について
山中　健司（64）

武藤一雄宗教哲学の一考察――キリスト教弁証論（Apologetik）の視点から――
張　潔（86）

あとがき　**(97)**

２０２２年 ３月
京都大学キリスト教学研究室

あとがき

◆『キリスト教学研究室紀要』第 10 号をお届けいたします。京都大学キリスト教学専修（研究室）刊行の「研究室紀要」も、2013 年度の創刊から、今回で第 10 号を迎えました。紀要第 10 号を無事に刊行できたことについて、執筆者、そして編集担当者に心から感謝申し上げます。

◆京都大学のキリスト教学研究室は、教員と大学院生を中心に構成された研究者の研究共同体として運営されていますが、そこで取り組まれる研究テーマは多岐にわたっています。構成員（大学院生）が実際にどのような研究を行っているかは、本号に収録された「2021 年度・第二演習の記録」に記載された通りになります。

◆この「研究室紀要」は、キリスト教学研究室の研究内容を広く公開すると共に、所属の大学院生に論文などの執筆機会を提供することを目的としています。

査読体制の確立など、創刊当初からの懸案事項が存在するものの、当面は、大学院生の研究論文、研究ノート、書評に加え、教員（常勤と非常勤）や課程修了者による研究論文を掲載することによって、研究論集としての十分な水準が確保されるように心掛けたいと思います。

◆前号（第 9 号第 2 集）の「あとがき」で触れられているように、2021 年 3 月をもって、長年、研究室を牽引されてきた芦名定道教授が退職され、2021 年度より津田准教授が一人で研究室を運営していくことになりました。芦名先生は、関西学院大学神学部に異動され、引き続き教鞭を執られますが、今後の先生の御活躍を心よりお祈り申し上げます。

◆2021 年度のキリスト教学専修では、学部卒業生 4 名（今村雛、太田颯馬、道田蒼人、村上遼）、大学院修士課程 3 名（岩澤武、塩川礼佳、メナチェ・アンドレス）が、それぞれ卒業論文と修士論文を提出し、それぞれの課程を修了しました。また、1 名（岡田勇督）の課程博士論文の試問が行われ、博士号が授与されました。それぞれの場での研鑽と飛躍を期待しております。

なお、2021 年度も、引き続き新型コロナウイルス感染への対応のため、恒例の予餞会は中止となりました。また、2022 年度は、学部生 2 名、修士課程入学者 2 名、博士後期課程進学者 2 名がキリスト教学研究室に加わる予定です。

◆本紀要は、研究室のホームページ、あるいは京都大学学術情報リポジトリ（紅・KURENAI）において公開されており、基本的には電子ジャーナルとして企画されています。これまでは一定部数の印刷製本も行われてきましたが、2021 年度の第 9 号からは、冊子体の印刷は行わなくなりました。この電子ジャーナルによって、キリスト教学研究室の研究活動が研究室外の方々に広く知っていただけるならば、幸いです。

2022 年 3 月

キリスト教学専修・准教授
津田謙治

2021 年度・第二演習の記録

〈前期〉

4 月 13 日	：津田謙治	「オリエンテーション」
4 月 27 日	：南裕貴子	「フライターク「伝道の神学」における伝道の働きと目的」
	：波勢邦生	「晩年の賀川豊彦と「不尽油壺」」
5 月 11 日	：渡邉蘭子	「アウグスティヌスにおける悪なる欲望の本質」
5 月 18 日	：平出貴大	「P. ティリッヒの宗教哲学おける「宗教の根源」への問い ― その思想の背景について」
	：山中健司	「矢内原忠雄の信仰と社会観 (1)」
6 月 8 日	：下村真代	「マイスター・エックハルトにおける言葉・説教活動 ― 『ヨハネ福音書註解』とドイツ説教を手掛かりに」
	：張潔	「武藤前期の神学的宗教哲学 (2) ― Apologetik （キリスト教弁証論 1 を中心に」
6 月 15 日	：加藤良輔	「H・リチャード・ニーバーの歴史論における学問的歴史学の位置付け」
	：西村一輝	「『ルターの予定概念への試練経験の影響』における中心的議論 (1) ― ルターにおける「試練」の諸形式と「予定の試練」およびその前提について」
6 月 29 日	：メナチェ・アンドレス	「17 世紀後期の排耶書における外道 ― 雪窓宗崔」
7 月 3 日	：ティエリ・リチャーズ	「現在丸の内のクリスチャン状況」
7 月 6 日	：山﨑ひとみ	「前期ティリッヒの『宗教哲学』 (1)」
	：藤守麗	「ロギスモスと情念 ― 第四マカベア書におけるギリシア-ローマ的徳のユダヤ的解釈について」
7 月 10 日	：塩川礼佳	「価値並行論」の原風景から ― 南原繁における道徳と政治の問題」
	：岩澤武	「トレルチ『社会教説』における「神秘主義」の意味 ― とくに古代・中世」
7 月 13 日	：森喜啓一	「ピーター・L・バーガーの宗教神義論」
	：潘陽	「北村透谷「美妙なる自然」の美学的な自然理解とその行方 ― ロマン主義文学とキリスト教宗教美術の間（第一部分）」

〈夏期・大学院生研究発表会〉

8 月 31 日：日本基督教学会・日本宗教学会における個人研究発表予定者による予行演習。

〈後期〉

10 月 5 日	：塩川礼佳	「南原繁のカント解釈：「価値並行論」の原風景より」
10 月 12 日	：メナチェ・アンドレス	「17 世紀の排耶書におけるキリシタン排除と「内部性」の問題 ― 雪窓宗崔『対治邪執論』を中心に」
10 月 19 日	：波勢邦生	「賀川豊彦と「不尽油壺」」
11 月 2 日	：渡邉蘭子	「concupiscentia の根源としての superbia ― アウグスティヌス『三位一体論』の分析をとおして」
11 月 9 日	：岩澤武	「トレルチにおける「神秘主義」類型の意義 ―『キリスト教諸教会と諸集団の社会教説』を中心に」
	：山中健司	「矢内原忠雄の信仰と社会観 (2) 」
12 月 7 日	：平出貴大	「パウル・ティリッヒの「宗教」の弁証 ― 1920・30 年代における思想の展開」
	：西村一輝	「パネンベルク『ルターの予定概念に対する試練の経験の影響』における中心的議論 (2) ― ルターにおける予定の試練の克服の問題に焦点を当てて」
12 月 14 日	：リチャーズ・ティエリ	「人に喜びを与える花が黒い土から芽生える ― 内村鑑三の状況の罪：ローマ書 1:18-3:20 についての講義で述べた鍵となるテーマの概要」
	：張潔	「武藤の田辺論 ― 田辺のキリスト教思想理解をめぐって」
12 月 21 日	：森喜啓一	「ピーター･L･バーガー初期の宗教世俗化論における神義論の問題」
	：潘陽	「「美妙なる自然」について ― 北村透谷の自然理解から青木繁へ」

〈春期・大学院生研究発表会〉

3 月 12 日：日本基督教学会・近畿支部会における個人研究発表予定者による予行演習。

『キリスト教学研究室紀要』について

以下に示す投稿規定、執筆要項は、『宗教研究』（日本宗教学会）に準じたものであるが、暫定的なものであって、随時改訂することになる。

A.『キリスト教学研究室紀要』論文投稿規定

１．投稿者は京都大学キリスト教学専修の教員（常勤・非常勤）と研修員、大学院生にかぎる。なお、ＯＤの投稿については、個別的に判断する。

２．内容は未発表の学術論文、書評論文であること。大学院生の投稿者の場合は、第二演習での研究発表などの論文化を原則とし、修士課程の学生の投稿は書評と研究ノートに限るが、本紀要における特別企画などに応募する場合には例外的に論文投稿を認めることがある。論文と書評の採択、またこの原則についての例外的扱いについては、編集委員会（当面は芦名）が決定する。なお、研究ノートや諸報告などについても、論文や書評に準じて適宜判断する。

３．原稿は横書き、枚数は学術論文400字詰原稿用紙50～60枚程度（注・図表等を含む)、書評論文 400 字詰原稿用紙 15～20 枚程度とする。

４．電子データの書式は、横書き、40 字×30 行とし、400 字詰原稿用紙での換算枚数を付記する。

５．学術論文には欧文タイトル、氏名のローマ字表記を付記すること。

６．稿料は支払わない。

７．『キリスト教学研究室紀要』は基本的には電子ジャーナルとして刊行され、この号については冊子印刷は行わない。

８．掲載された論文は京都大学キリスト教学専修ホームページと京都大学学術情報リポジトリで公開する。そのため、当該論文の複製権と公衆送信権はキリスト教学研究室に委託されるものとする。ただしこれは、執筆者本人による複製権および公衆送信権の行使を妨げるものではない。

—2022 年 3 月 31 日発行—

The Annual Report on Christian Studies

X

CONTENTS

Article

The Dream Concept in “De anima” of Tertullian

TSUDA Kenji (1)

Faultlines in Hebrew Grammar Concerning Proper Names:

: Three Grammar Textbooks of the Amsterdam Jewish Community of the 17th Century

TESHIMA Isaiah (Izaya) (19)

Notes

Dreams as Spiritual Vision in Augustine’s *De Genesi ad Litteram* XII.

WATANABE Ranko (45)

About the Patriotism of Tadao Yanaiara

YAMANAKA Takashi (64)

A Study of Kazuo Muto’s Philosophy in Religion: from the Perspective of Christian Apologetics

ZHANG Jie (86)

Afterword **(97)**

March, 2022

Faculty of Letters, Kyoto University, Department of Christian Studies

Kyoto Japan